

推薦文

「東京で面白い塾をやっている同級生がいるんです。先生の話をしたら、ぜひお会いしたいといので、時間を作ってやってくださいませんか。」

金沢で教えていたときの元教え子からそんな電話がある日かかってきた。

若手の塾長で、オール1に近い生徒ばかり集めていると言うのだ。

塾をやっていれば分かることだが、成績の悪い生徒を伸ばすには、躰を含めてかなりエネルギーを必要とする。

かなり興味がわいたので、二つ返事で引き受けた。そんな経過で創心ゼミの高田康太郎君と会うことになった。

第一印象は見たままの暑苦しいヒゲダルマ。しかし、笑顔がとてもかわいい。

人を惹きつけるいいオーラが出ている。

うちの授業を見学した後、いろいろ話しこんだ。彼は見学後、少し興奮しているようだった。

彼が大田区の久が原に塾を出したのは、そこが激戦区だったからとのこと。

「一番大変な場所で勝てなかったら、意味がないんです。」とさりげく言う。

こういう直球で勝負を挑む若者に久しぶりに出会った気がした。

私教育に最も必要ものは、子供の手本となるバイテリティ溢れる教師だ。

教育で儲けたい輩は山ほどいるが、真剣に子供を鍛えようとしている塾人は悲しいかな、少ない。

そんな彼が代表を務める創心ゼミが悪い塾のわけがない。

塾業界に30年以上いていろんな塾を見てきた私が自信を持って薦められる塾である。

その熱さはただものではない。

進学塾シッパス 塾長 久保田雅裕